

持続可能性に配慮した運営計画第二版における気候変動分野の目標 12 に記載した、対策を講じても発生することが避けられない CO<sub>2</sub>等に対する「東京 2020 大会のオフセットの考え方」（34 ページ）について、以下のとおり定めます。

## 東京 2020 大会のカーボンオフセットに使用するクレジットについて

東京 2020 大会では、大会に関連した CO<sub>2</sub>の排出量について、可能な限り実態に即して算出しています。そのため、客観的な検証など、以下の条件にすべて適合するクレジットでオフセットします。これにより、オフセットの客観性と信頼性を確保しています。

| 東京 2020 大会のカーボンオフセットに使用するクレジットの条件  |
|--|
| ■ プロジェクトは「追加的」でなければならない。   |
| ■ カーボンクレジットの二重カウントを避けなければならない。取引を記録し、客観的な検証を可能とする独立したシステム（登録簿や取引ログ）が必要。                    |
| ■ プロジェクトは、独立した監査機関によって、有効化および検証されなければならない。   |
| ■ プロジェクトは、対象地域の社会・経済・環境に対して、悪影響を与えず、むしろ、便益をもたらすものでなければならない。具体的には、SDGs に対する貢献を説明できなければならない。 |

### 【上記の条件を満たす例】

- 自治体キャップ&トレード制度のクレジット
- GS: Gold Standard (海外 VER: Verified Emission Reduction)

持続可能性に配慮した運営計画第二版における気候変動分野の目標 12 に記載した、

「各主体が参加できるスキームによる削減活動」（34 ページ）について、以下のとおり定めます。

## 東京 2020 大会における市民による CO<sub>2</sub>削減・吸収活動について

東京 2020 組織委員会では、東京 2020 大会を契機に、多くの方々による CO<sub>2</sub>削減・吸収に寄与する活動が、国内外にレガシー等として広がることも重要と考えています。そのため、上記「東京 2020 大会のカーボンオフセットに使用するクレジットの条件」に該当しない場合であっても、以下の考え方を満たす取り組みの削減・吸収活動を集計し、公表することで、より多くの方々の参加と脱炭素社会に向けた取り組みの一層の促進を図ります。

| 対象となる CO <sub>2</sub> 削減・吸収活動     |
|-----------------------------------|
| ■ 持続可能性に配慮した脱炭素社会へつながる削減・吸収の取り組み。 |
| ■ 削減・吸収量が定量化されている。（算出根拠があること）     |
| ■ 個人や団体が参画・連携した活動である。             |